

第2回 河南町総合教育会議 議事要旨

日 時 平成28年2月8日（月） 15時00分～17時03分

場 所 河南町役場4階大会議室南

出席委員 町長 武 田 勝 玄

町教育委員会 委員長 安 居 美千代

町教育委員会 委員長職務代理者 内 堀 裕 規

町教育委員会 委員 三 宅 恭 子

町教育委員会 教育長 新 田 晃 之

欠席委員 町教育委員会 委員 土 井 修 市

（町職員出席者）

総務部 木矢部長、教・育部 久保部長、辻本副理事兼教育課長、湊こども1ばん課長、総合政策部 赤井副理事

事務局：総合政策部 森田部長、上野副理事兼秘書企画課長、森課長補佐

傍 聴 者 2名

1 開会

（上野副理事兼秘書企画課長）

それでは、ただいまから平成27年度第2回河南町総合教育会議を開催いたします。

まず初めに、配布資料の確認をさせていただきます。

…… 配布物確認 ……

不足の資料はございませんでしょうか。

それでは、お手元の次第に沿って進行させていただきます。

議事の進行につきましては、議長であります武田町長にお願いいたします。

武田町長、よろしくお願いいたします。

2 町長あいさつ

（武田町長）

では冒頭で少し、ごあいさつをさせていただきます。皆さん、改めましてこんにちは。大変お忙しい中、第2回総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様におかれましては、日頃から子どもたちの育成をはじめ、本町の教育行政にご尽力いただいておりますことに対しまして、敬意と感謝を表したいと思います。

さて、懸案でありました本町のコミュニティバスの実証運行が2月2日から開始されました。もう皆さんも乗っていただいたかもしれませんが、今のところ予定どおり、大きな事故・トラブルもなく進んでいるところでして、私は日曜日、ちょうど「道の駅かなん」から乗って、周回して帰ってくるまで55分、100円で乗らしていただいたのですが、その間10人ぐらい乗られましたけども、想定外の状況がありまして、おばあさんが途中でトイレに行きたいと言われまして、運転手さんが停車されるケースがありました。

今日は、教育マターの会議ですので、このバスの子どもたちの利用とか、例えば親御さんの負担がどうなるのか、ということをお皆さんにも見てもらった方がいいですね。このあいだの運転手さんの話によると、中学生が帰りに7・8人まとまってバスに乗ったと言われていました。今の路線から見ますと、子どもの通学にも十分使える時間帯・コースがあるように思いますので、そのところのデータも取って検証してみたいなと思っております。

さて、本会議は昨年8月に第1回目を開催させていただき、今後の総合教育会議のあり方・スキーム等をご議論いただきまして、充実した会議であったと思っております。

本日の会議では、将来の人口ビジョンや総合戦略について、本町の若い職員たちを中心に随分議論してまいりまして、このほど案がまとまりました。子どもたちに関係することも多々ございます。そういうことから、皆様にお示しをさせていただこうということでございます。

それから、この3月議会に上程いたします当初予算について、今最終の詰めに入っておりますが、事業として関わりのあるものをご説明させていただきたいと思っております。担当が説明いたしますので、忌憚のないご意見をいただき、今日の会議が実のなる会議となりますことを願ひまして、ごあいさついたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

○議題（1） 平成28年度における教育関連の主な事業について

（資料1「平成28年度における教育関連の主な事業等」について、森田総合政策部長が説明。）

<質疑応答>

1. 英語・国際理解教育

（内堀委員長職務代理者）

「中学生海外学習事業」について、当初より増やしていただいて非常にありがたいと思っておりますが、今年、27年度は何名の参加でしたか。

（森田総合政策部長）

16名です。

（内堀委員長職務代理者）

16名の参加をいただいたとのことですが、定員20名としている根拠は何かあるのですか。

（森田総合政策部長）

26年度に初めて実施されたと思うのですが、その時23名の応募がありました。その時の定員が10名ということでした。多数申し込みがあったので、教育委員会と相談のうえ、27年度は20名に拡大いたしました。2年目ということもあったのかもわかりませんが、20名に達しなかったということになりました。28年度につきましては、同じ20名で募集してですね、できれば多くの方に参加していただきたいという考えでございます。

（内堀委員長職務代理者）

はい、わかりました。素朴な疑問なのですが、ものすごくいい事業をしていただいていると思うのですが、その中で行った中学生、もしくは行けなかった中学生もいますが、行った実績があまり反映されてないのではないかという気がします。16名が行った、その成果というものをもう少し追及していき、年々反映がなされて、20名のところが40名、あるいは50名の応募が

あるというような方向性に、教育委員会も含めてもっていけるような方向を考えていけたらと思います。トータル的に「英語・国際理解教育」という中で、色々な事業をしていただいているのは非常にありがたいと思いますが、この対象となっている子どもたちの中に、英語を話せないとちょっと不安だなと思う子がいたり、あるいは英語をもう少し話せるようになりたいと思う子が、これだけの事業をしている中で増えてきてほしいと思っていますので、色々意見を交換しながら海外の学習事業を中心に、どんどん反映がなされるような事業にしていきたいなと思っています。

(安居委員長)

色々な取り組みを町でしていただいて、実績を挙げているということで、喜ばしい傾向だなと思っています。英検の方も子どもに広がっていきまして、意欲的になれるかなと思うのですが、「使える英語プロジェクト事業」これは多分、予算関係の絡みでこれイコール英検というようにもってきていると思うのですが、私の考え方では、「使える英語プロジェクト事業」というものがあって、その下に英検もあれば、イングリッシュキャンプ、海外学習事業や子育て支援の英語の部門、それからALTによる授業など、もっともっとそういうものが、色々枝がなくて、本当に使える英語プロジェクトとなるのではないかなと。やっぱりテストするだけでは、その時勉強して5級・4級と通っても、本当にしゃべれないと通用しないと思います。ですから、本当に会話ができるかどうかということが考えた時に、やっぱりまだまだ教科書で習う英語とかが入っているし、外国人の先生が見ても気後れすることなく堂々と英語をしゃべれるような子どもを育成していかないと、本当の使える英語プロジェクトにはならないのではないかなと思います。ですから、この事業に関しても、英検を受けることでどのような事業展開があるのか、それはもうなしで子どもたちの勉強だけでやるのか、どういうふうに考えておられるのか、やっぱり難しいと思うのですが、中学校の英語の授業だけで賄えるのかどうかなど、そのあたりを教えていただけたらと思います。

(久保教・育部長)

「使える英語プロジェクト事業」というのは、たしか平成24年ぐらいから府のプロジェクトで府下全体で始まりまして、中学3年生で30%ぐらい英検の3級合格者が出るように、というような目標でありました。テストだけではなく、そのテストを分析しまして、どこが弱点であるか、リスニングが悪いとか、そういうのを見まして英語の授業の指導に役立てるというのが目的でありました。河南町においても、幼児教育から英語をやらせてもらいまして、小学校から中学校にかけてイングリッシュキャンプ、中学校ではもっと外国で英語を研修しようということで、海外学習事業が始まりまして、結果として英語検定がその評価につながるということで、今年平成27年度に英検を行いまして、3級で35.9%の合格率ということで、着々と成果が挙がっているのかなと思っています。

(内堀委員長職務代理者)

この中で、町単独事業はどれですか。

(森田総合政策部長)

この中では、全部です。「使える英語プロジェクト事業」は最初補助金があったのですが、平年度化して続けてやるということで、今は全部一般財源でやっています。

(町長)

この前、新聞に「府は目的を達していない。」と書いてあったのは、これですか。

英検を目指そうとして、府が目的の達成度が非常に低いとあったのが、このことですよね。

(久保教・育部長)

府のプロジェクト事業は25年度で終わっています。26年度の時点で、引き続き同じようにテストをやろうということなので河南町はやっておりまして、27年度につきましては英検に切り替えたということです。

(町長)

先程、英検3級の合格率は聞きましたが、4級はどうですか。

(久保教・育部長)

4級については、27年度はまだ結果が出ていません。中学3年生だけテストがありますので、先に3年生に3級を受けてもらいました。24年度は、27.2%で30%に達していなかったのが、35.9%になったということです。

(三宅委員)

「英語子育て支援事業」ということで、保育園・幼稚園それぞれのところで英語教室を行うということですが、小・中学校については、英語教育の関連性というか流れが段々とできてきていると思いますので、今度は保育園・幼稚園について指導される方がどういう方なのか、ちょっとこれだけではわからないのですが、それぞれ別ではなく、すべて縦に一本筋を通すような形で計画的にやっていっていただけたらと思います。それと、中学校で「使える英語プロジェクト事業」ということで、海外学習とかイングリッシュキャンプとか英検であるとか通常の授業であるとか大事なのですが、ALTの先生を使った普段の生活の中での英語の取り入れというか、普段の学校生活の中であれば、もっともっと英語に嫌悪感を持つ生徒も減ってくるのではないかなと思いますので、そういう仕組みも考えていっていただきたいなと思います。

(内堀委員長職務代理者)

「英語・国際理解教育」という色々な事業の中のすべてにおいてですが、事業目的はどこに置いているのですか。事業目的がちょっと見えない、何に向かって何を目標に色々な事業を組まれているのかというところが、一番のポイントだと思うのです。

トータル的に何を目指しているのかが見えないのです。

(久保教・育部長)

最終的には、使える英語を習得してもらおうということです。

(内堀委員長職務代理者)

それであれば、河南町に住んで河南町の保育園・幼稚園あるいは小学校に通い、中学校を卒業すれば、少なくとも何人かは、全部が一番ベストですけども、英語を話せるようになる、英語の理解力が身に付くということで、僕は河南町に住んで河南中学校へ行きたい、河南町の小学校へ行きたいとなり、違うところから引っ越してもらったりするという、例えばそんな目的が一番上にあったとしたら、それに向かってのプロジェクトの事業というのが、僕は一番理想なのかなと、それは教育委員会だけのことに限らずですよ。そうなってくれば、僕らがいつも教育委員会の会議をさせてもらう中でも見えないのが、結果報告が全くないということです。例えば、中学生の海外学習事業で、2・3年生が対象で16名行ってきましたというような結果報告について町長はどういうように教育委員会から報告を受けられておられるのかというところなのですが、結局定員20名のところ16名しか来なかったよというような報告なのか、これに対してどんな成果があったのか、またそれを次年度に引き継ぐためにはどういうことをしていかなければいけないのかというところまでの報告を受けておられるのか、受けておられるのであれば、それは教えて

いただきたいですね。

(町長)

反省会というか、それぞれのレポートの発表会を聞いたり、報告を見ておきますと、やっぱり行った子どもたちは英語に対する考え方が変わってくる、取り組みの意欲も俄然増している、それから、将来いっぱい英語を使った仕事に就きたいというようなことも言っている。それはすごい成果であります。もし海外研修がなかったら、やっていなかったら、その子たちがそういったことに目覚めることはまずないであろうと、それはA L Tもあって英語に接する機会が昔より格段に増えましたけれども、やっぱり学校の行事の一つに組み入れたということで、本質的に取り組み方が違う、また社会があるいは町が応援してくれるということで、私は事業としての成果はまだ2年しか経っていませんが、これからだんだん出てくるだろうと楽しみにしているところであります。

(森田総合政策部長)

補足ですが、今おっしゃったことは資料3-2があるのですが、これは河南町の若手職員を中心とした19名でプロジェクトチームを作って総合戦略を作っているのですが、その案が今出来上がりました。ここには、ひとづくり・まちづくりビジョンということで、子どもが一番大切であるとなっておりまして、これの12ページを見ていただければ、こういった英語教育も含めた町の主要施策もしくは人口増策を展開するということでありまして、幼児期からの英語教育に取り組むということや小・中学生のグローバル人材の育成という大きな目標に向かって事業を展開していくというような位置付けになっておりますのでよろしくお願いします。

(町長)

何日か前の新聞ですけども、忠岡町の英語教育についての記事がありました。英語で町おこしを目指すというものですので、後で皆さんにコピーをお配りします。忠岡町も英語教育をやっていますので、本町も英語教育の取り組みを発信できたらなと思っております。それから、将来インバウンドということで、少し余談になりますけども、本町の道の駅も「重点道の駅」に選ばれて、諸外国から日本の道の駅を検索した時に、関空から一番近い「重点道の駅」はどこかとなった時に、かなん道の駅があるということでツアーが組まれる可能性がある、そうなった時に英語がしゃべれるあるいは英語で表示できることや中国語も必要になるということで、今はほとんど無縁であります。これからは多国語圏に必然的に巻き込まれていくという可能性は大ですので、中学校だけではなく大人もそういうことに取り組んでほしいなと思っており、その先頭に、この中学生の英語教育があるのではないかなと思っております。

2. 防災教育・通学時等の安全対策

(内堀委員長職務代理者)

防犯カメラの録画装置は、実際にどこにあるのですか。

(森田総合政策部長)

デジタルになっており、小さなディスクがありましてそこに10日間くらい録画されます。

(内堀委員長職務代理者)

それはカメラに付いているのですか。

(森田総合政策部長)

カメラの横に付いています。何かあった場合は、そこからデータを取ります。

ほとんどモニターは我々も地区の方も見ません。警察等の要請があって初めてデータをチェッ

クすることになります。

(町長)

中学生の女の子が自転車通学中に、柏原駒ヶ谷千早赤阪線の関電のところの横断歩道を渡っている時に当て逃げをされ、怪我をしたということがありました。警察が随分調べてくれました。防犯カメラを付けているコンビニのカメラも全部調べました。元々、コンビニのカメラは駐車場が映るように付けてあるので、あまり道路側までは映してないのですが、少し映っていたそうです。あと、大宝進入路の交差点のカメラにもそれらしい車が映っているのですが、解像度があまり良くてよくわからない、もしその時に今取り組もうとしている高画質のカメラがあれば犯人はもう捕まっていたかもしれない。これからそういう抑止力をもっと高めていきたいと思っています。また、子どもたちだけでなく、芸大の学生も守りたい、芸大生が安心して生活できる、通学できるという状況でないと、保護者の皆さんは芸大に大事な子どもさんを通わせないでしょうから、そういうことも含めて町で頑張っていきたいなと思っています。

(安居委員長)

ジュニア防災検定（JBK）について、もう一度簡単でいいので、説明してもらえませんか。

(森田総合政策部長)

検定となっているのですが、ある日テストがあって何点以上取ったら合格というようなものではなく、検定日は決まっているのですが、その前に事前に研修があり、家庭で色々防災についての話をしてから検定を受けます。研修の課題はその時々で変わるのでしょうが、こういう時にはどのように避難したらいいとか、地域内で危険なところがあれば豪雨の時はそこが危険なので気を付けようとか、そういうことをやるそうです。一人ひとりではなくグループもあるそうです。

(安居委員長)

家で聞いたことをベースにして行う検定ですか。

(森田総合政策部長)

事前に、家で色々話をすることです。

(安居委員長)

防災教育というのを学校で教育計画の中で掲げてまして、色々な教育の中で実践活動もやっていますが、そういうものは反映されないのですか。

(森田総合政策部長)

そういうものも含めて、有事というかとっさの時にどういう対応をするか、学校にいる場合は当然学校から避難する経路がありますが、実際、何がどこで起こるかかわからないので、通学時、登校・下校時に地震が起こった時にどういうふうに対応したらいいかとかについても、身に付けてもらおうということもあるのではないかなと。とにかく来年、初めて実施することですので。

(安居委員長)

そこにいくまでに、しっかりと中学2年生だけではなく小中学生を含めての指導というのも大事になってくると思いますし、あれだけ東日本大震災のこととか色々なことを聞いている中で、何が大事かということ、自分の命を守るそして自分の命があってみんなで助け合うという精神を育てていかないといけないと思います。色々勉強させてもらっていると思いますが、まだまだ実際私たちはそういう目にあってないので、なまぬるいと感じますので、検定を受けるのも大事ですが、それまでの過程をもっと子どもたちに知ってほしいし、大人ももっと知っていかないといけないと思いますし、それが教育ではないかなと思いますので、そのあたりをしっかりと煮詰め

たうえで色々なことをチャレンジしていったほしいなと感じています。

(三宅委員)

この検定というのは、どこがやっているのですか。

(森田総合政策部長)

一般財団法人防災検定協会というところです。

(内堀委員長職務代理者)

すすめておられることはとてもいいことだと思います。例えば、ジュニア防災検定を中学2年生の子が数名とってくれたとしますよね、とったことをその子どもたちは、生かせるのかということだと思います。中学校で行われる避難訓練は、この子たちを中心に行うのですかというような話です。とったことを広げていっていける手法というものをアフターフォローしないといけないと思います。とった子は、防災の意識も高い、人を助けようという意識も多分高いはずです。そうしたら本当に危険な時に、中学生に先頭を切らすというのは問題があるかもしれませんが、通学時でもその子が中心となった避難体制を考えると、願わくばその周辺の小学生も含めて、ある程度の安全な範囲での避難誘導をしてくれるというようなことに生かさせていくのであれば、とうとうというような子どもも増えてくるのかなと思います。だから、とった子らを中心とした組織を作るとか反映していくというのが一番の目的ではないのかなと思います。

(森田総合政策部長)

教育委員会と調整をし、中学2年生全員に受けていただくことを考えております。

一人につき3千円かかるのですが、来年度は2年生、次の年にまた新しい2年生が受けるということで何年かすると全員がそういうことに触れたというか、考え方を勉強したというような位置付けでやっていきたい、実際これは初級・中級・上級となりますので、もっと広めていきたいと考えています。まずは中学2年生からということです。

(内堀委員長職務代理者)

お願いがあるのですが、以前から定例会でお話させていただいていますが、たまたま僕は近つ飛鳥小学校区なので、現在子どもはスクールバスで小学校へ通っています。ぜひ、中学校の防災検定をとった子どもが増えてきたら、一度中学校と小学校と合同で地域・校区内で一緒に通学させたいのです。特に旧石川小学校の子どもたちというのは、石川の村の中をほとんど歩かないのです。また大宝地区の中も歩かないのです。だからもし、バスあるいは交通の便が損なわれるような被害があった場合、歩いて帰ることができないのです。そういったことも避難訓練の一環として必要なのかなと思います。バスを乗らしていただいているのは有り難いと思うのですが、歩いて帰るような訓練も時には必要かなと思いますので、ぜひ検定をとった中学生が校区ごとに分かれて歩いて帰れるような避難訓練をしていただけたらと思います。

(町長)

町職員は参集訓練を年1回やっています。それと同じように学校単位で、保護者の了解をもらって参集訓練をやってはどうかと思うのですが。

(内堀委員長職務代理者)

避難訓練という名のもとなら大丈夫でしょうね。

(安居委員長)

全校区で、ですか。

(町長)

そうですね。新しいアイデアが出ましたね。

このJ B Kはですね、東日本大震災の時に釜石の奇跡というのがありましたが、あれは群馬大学の片田先生が一生懸命子どもたちに避難3原則というのを守らせたのですが、これが「最善を尽くせ」、「率先避難者たれ」、それから「想定を信じるな」この3つです。子どもたちが先に逃げて、それを見て大人が逃げた、また中学生が小学生の手を引き、幼稚園児の手を引いて逃げた。それがあって子どもたちにそういうような教育をしようということでこのJ B Kが始まったと思うのですが、本町のファイアジュニア・ファイアチャイルドも狙いは一緒です。この子たちが将来、消防士になってくれるかもしれないし、警察官になってくれるかもしれないし、そういうことも含めてこれをやらせていただきたいと思います。それと今、教育長が色々と考えてくれていますが、中学生を対象に著名な講師を招いて講演会を実施し、子どもたち全員と親御さんと先生も一緒に聴いていただくようなことをしようと考えてれています。

(教育長)

J B Kについては、全中学生というか、その学年を対象に全員受けるということがまだないのです。一部民間の団体で集めてというのはあるのですが、学校単位ではまだないので、まず手を挙げさせてもらっているところです。先程、森田部長から説明があったように全員参加することに意義があると考えています。まずは意識付け、それから子どもたちが自ら考えて行動できるようにと考えています。

それと講演会については、検定の方が先になってしまうのですが、予定では11月の土曜日に授業参観がありますので、その日ならご父兄もお集まりいただけますので、防災に関する語り部の講演会を予定しています。今、交渉中なのですが。

(内堀委員長職務代理者)

検定はいつ行うのですか。

(教育長)

検定は6月頃です。中学2年生全員が対象です。

3. 学習状況の向上・図書館等の充実

特になし。

4. 保育・幼児教育環境の整備

(内堀委員長職務代理者)

選定委員会のメンバーが集まって、第1回の委員会を開催する予定はいつぐらいですか。

(久保教・育部長)

4月です。

5. 多子世帯への助成

(町長)

子どもの施策は、あとここには書いていませんが、医療費の問題があります。保育料と合わせて両雄であるかなと思うのですが。

(内堀委員長職務代理者)

国の施策も絡むのですが、2人目・3人目の子どもを作ろうと思えるような環境があるかどうかというのが先にありますから、そこは訴えていかないといけないのかなと。

(町長)

これは子育て対策とは別に、ワーク・ライフ・バランスとかそこらの理解も必要ですし、全課

に関わることで、総合的に組み合わせさせてご家族が判断なさることですので。

(内堀委員長職務代理者)

これの対象となるのは何世帯ぐらいですか。3人目が無料である世帯のデータは出ていますか。

(久保教・育部長)

2人目・3人目合わせて60世帯ぐらいです。

○議題(2) 河南町ひとづくりビジョン(人口ビジョン)(案)・河南町まちづくり戦略(総合戦略)(案)について

1. 河南町ひとづくりビジョン(人口ビジョン)(案)について

(資料2-1「河南町ひとづくりビジョン(人口ビジョン)(案)概要版」、2-2「河南町ひとづくりビジョン(人口ビジョン)(案)」について、赤井総合政策部副理事が説明。)

<質疑応答>

(安居委員長)

45年先を目指してということ、途方もなく先の話であるなと思うのですが、もうちょっと現実的な、10年、20年せめて30年くらい先でないと、すごく不安を感じますね。45年先はもう私は居ませんけど。なぜそんな先なのか、人口を増やすにはどうするのか。

(赤井副理事)

それについては、後程、総合戦略の方で説明いたしますが、長いスパンで見た話と5年間の積み重ねの話と二つで成り立っています。ここに行くまで、コツコツと数字の積み上げをしていくということでもあります。

(町長)

あと45年先ということで、私はもうおりませんので、このPTには私は参加しておりません。これは若い、その時にまだ現役の人ばかりで考えてくれたものであります。

(内堀委員長職務代理者)

このビジョンのみで、じゃあそのためにはというのは、次の戦略でということですね。

(赤井副理事)

そうです。これは将来の方向と人口の展望を示すものです。

(上野副理事兼秘書企画課長)

2060年を目指しているのは、国の人口ビジョンで2060年に人口を1億人に留めたいというのがありますので、それに河南町も合わせているということです。

(町長)

元々、2年ほど前に増田寛也さんが2040年の人口予想をされ、894自治体が消滅するというレポートを出されて、その中に河南町も入っていたのですが、あの時の予想ではこのまま行くと2040年には河南町の人口は1万4千人余りになるよというものでした。この非常にセンセーショナルなレポートが出て、国も人口が減っていくというのはわかってはいたのですが、こういう具体的なレポートが出たことがなかったのがこういう形で出て、力を入れたのが昨年であります。それに応じて市町村に2060年の人口ビジョンを示せ、そして5年刻みで総合戦略をつくれということがありまして、それに応じて町も動き出したということです。

2. 河南町まちづくり戦略(総合戦略)(案)について

(資料3-1「河南町まちづくり戦略(総合戦略)(案)概要版」、3-2「河南町まちづくり戦略

(総合戦略)(案)」について、赤井総合政策部副理事が説明。)

<質疑応答>

(内堀委員長職務代理者)

赤井副理事、この人口ビジョン・総合戦略を担当していただいて、あなたは河南町に住もうと思いますか。もしくはあなたのお子さんを河南町に住ませたいと思いますか。

(赤井副理事)

子どもには、住ませたいと思いますね。私は諸般の事情により住めませんが。

(内堀委員長職務代理者)

何が言いたいかというと、やはり自分が住みたいと思えるところでないと、前には向かないのかなと思います。例えば、周辺地域との違いとか、そういう資料があればほしかったかなと思いますね。子どもの教育のことについても、他の周辺地域ではないことを河南町独特のこととしてやっているのか、それともどこでもやっていることを、単に河南町もやっているだけなら、人口が増えることはないと思います。

周辺地域との違いや、あと一番の特色、これだけは他のどこにもない、これを大前提に訴えていきたいというものがないといけないのではないかなと思います。だから、思いが見えづらいというか、例えば、河南町がものすごくいいとなり、河南町に住みたいとなった時に住む家はあるのか、住む場所はあるのかということも、5年後の戦略になくても45年後の戦略・ビジョンにはないと、なかなかそういう具体的な方向には進まないのかなという気がします。

(赤井副理事)

一番に、「子ども のびのび」かなんを持ってきているのは、今までもそうですがこれからも、これを一番にしていきたいということです。他との違いということですがこれは、いちごっこでして、助成を上げれば周りも上げるというようにいちごっこが続くのですが、先程言いましたように保育料を2人目半額・3人目無料にしたということは、周辺では他にはないことです。ただ、あまり露骨に他にはないこととは言っていないのですが、やはり差別化を図って河南町を選んでもらえるようなまちにしたい。そのためには、今まではPRが不足していたのではないかとということで、いいことをやっていても知らなかったら選んでもらえませんので、そういうところをどんどん発信していきたいなというように考えております。それと、住むところの問題ですけども、過去に1万7千人住んでいたということですし、今検討しているのは、大宝の住宅の区画を分ける時に最低面積を小さくして区画を増やすようにするとか、あと空き家の利活用についても将来的には考えていきたいと思っております。

(内堀委員長職務代理者)

僕らが若い時に、結婚したらそこに住みたいわけではないが、子どもを産むにはその自治体がいいというような特長的なことが過去あったと思うのですね。だから、増やしていく、増やしやすいの、結婚して子どもを産むには河南町がいいということがまず一番先なのかなと。なかなか仕事の都合があるので子どもを転校させるというのはリスクを高いですし、一番リスクがないのは、今、富田林に住んでいるけど結婚したら河南町に住みたい、河南町で子どもを産みたい、河南町の学校に行かせてあげたいというのが一番の魅力になるのかなと、そこをもっと具体的に訴えられるものがあればいいのかなと。働きざかりの青年が入ってきてくれるならば、住民税などの財源も入りますし、さらに充実も図れるのですが、いいことばかり並べても財源が伴うことなのでいいことばかり言えないと思うのですが、まずそこに焦点を当てるべきでないかな

と、あとは、子どもが中学校・高校卒業しましたとなった時に出ていけないような住みよいまちと思ってもらえることとか、他と比べた時に一番のテーマになるというものをもう少し大きく掲げていけばいいのかなと思いますね。

（赤井副理事）

やはり富田林に住んでいても、子どもを産む時には河南町に住んでもらいたいですし、河南町のコミュニティは、結構しっかりしていると思いますので、もうちょっと河南町を好きになるような教育とか施策を進めていくと、仕事でちょっと離れるけどやっぱり河南町に住んで河南町を支えたいと思うような子どもたちをつくっていけたらなと思います。

（内堀委員長職務代理者）

だから、さっきの英語の話になるのですが、せめて半分は英語を話せるようになって高校に進学させるというのも一つの魅力になるのかなと思いますし、できれば、どこかの国と姉妹提携をして、ホストファミリーを受けていただくとか、逆にこちらからも留学に出していったりと、行政がPRしていけば、どんどん河南町の学校に行かせたいとなり、付随的に、じゃあ親も河南町に住まいと子どもも行かせられないというようになってくるのかなと。色々なことを国の施策とか、45年先のこととか言っても、残念ながら現実的には、他からとるしかないと思います。産むならここで産んでほしいとなると、周辺地域あるいは遠いところからも住んでもらえるし、空き家とか農地とかがどれだけあるのかはわかりませんが、そういうのを活用できるようなまちづくりというのも、戦略の一つになるのかなと思います。

（三宅委員）

私は河南町で生まれ育ったわけではないのですが、河南町に来るきっかけは家を建てたからここに来たのですが、その中で一番先に考えたのが、子どもというよりは仕事の方でした。その次に子どもを育てる環境だったので、このビジョンを見させてもらっていると今考えられる範囲で色々書かれていますが、45年先というとこんな今考えていることではおさまらないことが出てくると思います。例えば、仕事を通うのではなく家で仕事をするようになって、そうするとどのような整備をするとみんな仕事をできるようになるのかとか、今の考えでビジョンをたてるからすごく狭い範囲でしかできていない気がしたのですが、45年先を見るのであればもっと先を見越したビジョンができてよかったのではないかなという感じはします。

（安居委員長）

私も同じような考えなのですが、今の現状ではこれを見させていただいて、すごく頑張っているな、かなり考えられているなど、自分がこれをつくる立場ならどれだけ徹夜しないといけないのかなと考えてしまうのですが、シビアに考えますと、人口を増加させようという考えならば、目玉となるものを持ってこないと集まらない、河南町に住みたいと思うだけでなく、そこに住み続けたい、ずっと住み続けたい、子や孫の代までも河南町に来てよかった、住み続けてよかったと思えるような町であってほしいと思うのです。今は一生懸命、学校教育や町の色々な取り組みをやって、発信もしてこれからもやっていかなければいけないと思っているけれども、結局苦労して子どもを学校へ入れて大学へ行って就職となると、河南町で就職できないし大学も行けないので、家を出ていってしまうのです。だから20～29歳までの人口が減少しているという現状が先程報告されていましたが、お年寄りだけが留まっていて一番居てほしい、担ってほしい人が都会へ出ていってしまうという現状が昔からあって、根本的には一つも変わらないですね。だから、目玉商品を投入して呼び込まないといけない。具体的なメリットを出して

いかなと、どこでもやっているようなことをやっても一向に河南町の人口は伸びないのではないかなと思います。やっぱり、住み続けたいまちづくりということで、若い世代の人たちがつくってくれたプランとおっしゃっていますが、それだけに任すのではなくてお年寄りも含めて、お年寄りだからこそ経験があるし色々なことを伝えていってから、若い世代のパワーでもっともっと新しいプランをたてないと、魅力のある住み続けたい河南町にはならないのではないかなという気がしますね。

空気はおいしい、緑はきれいでどかであるし、色々と補助もやってもらっているのですが、結局大きくなって出ていくということで、逃がしているのですよ、苦勞して育てた子どもたちをね。だからこういう状況であれば、人口は伸びない、減る一方であるとすごく危機感を感じます。

(赤井副理事)

ちょっとここでは出せるような施策はないのですが、今後、戻ってきてもらえるような、やはり子育て世代に戻ってきてもらい、親と一緒に住んでもらえるような施策を考えていきたいと思います。それと皆さんのご協力で河南町を盛り立ててもらおうということが必要ですので、ご協力よろしくお願いいたします。

(内堀委員長職務代理者)

今年、河南町は60周年ということですが、60年の歴史はあっても未だ、大阪市内に行ってもどこから来たのと言われても、富田林と言わないとわかってくれない、皆さんこれは経験があると思います。千早赤阪は知っている、太子も知っている、なぜ間にある河南町は知らないのか、やはりこのへんのPRの不足というのも、60周年を機にですね、どんどん情報発信をしてほしいですね。河南町というのは宮城県にありましたよね、今はなくなりましたが。唯一の河南町ですので、情報発信をしていただきたいですね。

(安居委員長)

河南町には高校がないですね。太子町は大学はないですが、インターチェンジができていますね。

(町長)

インターチェンジはできますよ。高速道路は河南町に来ますから。

(内堀委員長職務代理者)

朝、和歌山から371号で大阪に来られる方やオークワに奈良から、五條の方から買い物に来られる方も結構いますね。呼んでくるなら、山の向こうの人たちかなと、来る人はほとんど大阪で働いておられると思いますよ、あれだけ朝渋滞しているので。だからそういうところへの情報発信をしていただけたらと思いますね。

(町長)

高速道路で、関空まで20分、大阪市内まで20分で行けるようになりますから。

2060年に頭と身体がシャキッとした人が、ここにおられるかどうかですけども。

(安居委員長)

新卒で役場に入った人も定年でいないですね。

(内堀委員長職務代理者)

余談ですが、子どもたちにこういう話をされる機会はないのですか。素朴な疑問や、ものすごくいい意見をくれると思うのですが。子どもたちに、河南町はどういうまちになったらいいと思いますかとか、幼稚園、小学校、中学校の考え方というものが、それぞれある。その素朴な意見

というのは貴重であると思います。４５年後はその子どもたちが背負ってくれるわけで、我々はみんないないので、ぜひその機会というものをつくっていただき、ここに反映していただけたらと思います。

(町長)

ある島で、その島イコール町なのですが、総合戦略を中学生がつくった、中学生につくらせたのですが、そうすると親たちが「そんなことできない。」と文句を言った。すると中学生はこれではできなければ私たちは全員島を出ていくと言った。すると親たちは「はい。わかりました。」と認めざるを得なかったらしいです。

(森田総合政策部長)

色々な計画をつくる時にですね、中学生とか小学生とかとお話をし、考え方を吸い上げるという方法をとるのですが、今回は期間的なこともあってそういうようなアンケートとか中学生・小学生とのお話とかもしていないのですが、こういう形で案ができ上がったということで、この２月２１日に説明会を開催します。ここに中学生や小学生が来るというのは難しいかなと思います。あとは、もっとわかりやすい形、この概要版でもなかなかわかりにくいと思いますので、もっと子どもさん向けにわかりやすいものをつくるというような方法もありますので、戦略をこのまま策定したとしても、授業などで反映させるとかいうことも可能かなと思いますので、教育委員会と考えていけたらと思います。

(内堀委員長職務代理者)

一方通行ではなくて、子どもたちが素朴に意見を言える環境のもとでやっていただけたらと思います。

４ 閉会

(町長)

その他、何かございますか。なければ、そろそろお疲れだと思いますので、終わりにしたいと思います。

今日は、土井委員さんにご出席いただけなくて非常に残念でしたが、早くご回復いただけるようお祈りいたしまして、第２回の総合教育会議を閉会させていただきたいと思います。

ありがとうございました。